

大基委大評第 149 号
平成 26 年 3 月 17 日

長崎県立大学
学長 太田 博道 殿

公益財団法人 大学基準協会
会長 納 谷 廣 美



貴大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

添付資料 「改善報告書検討結果（長崎県立大学）」

以上



＜ 改善報告書検討結果（長崎県立大学） ＞

[1] 概評

2009（平成 21）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 10 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、教員組織については、専任教員の年齢構成比率において 51～60 歳の割合が、経済学部で 40.0%、看護栄養学部で 31.8%、国際情報学部で 45.7%と依然として高い状態となっている。年齢構成の適正化に向け、中長期的視点をもって、引き続き改善が望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上